

2025 年 9 月 26 日（金）開催 学術情報流通に関する連続セミナー 第 11 回
「研究情報のオープン化がもたらすもの：OpenAlex を用いたオープンアクセス分析」
開催報告

2025 年 9 月 26 日（金）13:30～15:00、研究大学コンソーシアム「学術情報流通の在り方に関する連絡会」主催による、学術情報流通に関する連続セミナー（第 11 回）「研究情報のオープン化がもたらすもの：OpenAlex を用いたオープンアクセス分析」を開催しました。

今回は、京都大学附属図書館研究開発室の沼尻保奈美助教を講師に迎え、オープンアクセスおよびオープンサイエンスの意義と国内外の関連動向、ならびに国際的な研究評価改革の潮流について解説いただきました。沼尻氏からは、研究評価の在り方の見直しが進む中で、オープンサイエンス政策との連動により、透明性と公平性の観点から、評価に用いる研究情報のオープン化が重要視されていることが指摘されました。続いて、近年注目されるオープンな研究情報データベース OpenAlex の特徴と、沼尻氏が OpenAlex を用いて実施したオープンアクセス論文に関する分析結果が報告されました。研究情報の最新動向とその活用について理解を深める貴重な機会となりました。

質疑応答では、北陸先端科学技術大学院大学の小泉周副学長によるファシリテーションのもと、会場およびオンライン参加者から活発な意見が寄せられました。特に、OpenAlex の収録情報や具体的な活用方法に関する意見や質問が多くあり、参加者の理解が一層深まりました。また、議論を通じて、オープンアクセスの価値を、従来の定量的指標ではなく、研究者個人の実感や体験に基づき「エピソードベース」で捉えるという新たな視点も提示されました。

講演終了後に会場で開催されたアフターセッションには、対面参加者の多くが参加し、講師を囲んで活発な意見交換が行われました。

■参加者数 181 名（対面 21 名、オンライン 160 名）

■当日の様子



講演する沼尻助教



沼尻助教の講演に聞き入る会場参加者



アフターセッションにて活発に意見交換する会場参加者

■アンケート結果 回答数：76

○所属機関

国立大学：51、私立大学：7、公立大学：5、民間企業：4、国立研究機関・官公庁：7、その他：2

○職種

職員（図書系）：39、URA：10、教員・研究職：5、職員（研究推進系）：6、職員（事務系）：9、出版関係者：2、学生：1、その他：4

○セミナーは参考になりましたか

参考になった：47、まあ参考になった：23

○ご意見・ご感想 ※公開の同意をいただいたものです。

- OpenAlex に日本語の文献も多数含まれていることは何となく知ってはいたが、その件数を鵜呑みにしてはいけないこと、何が日本語文献としてカウントされているのかを精査しないといけないことなど、気づきのある講演でした。欲を言えば、前半の自己紹介や中段の OA 方針に関する部分よりは、OpenAlex の分析に関する部分をもっとお伺いしたかったと思います。
- Open Alex での日本語論文？の収録が多い、but 研究論文以外もかなり入っているという話には驚きました。どのような仕組みでそうなっているのでしょうか？ 追加情報がほしいです！
- OpenAlex の現状や OAOS の意義など、地に足の着いたスタンスでお話してくださり、現場の職員として腑に落ちるところが多く、たいへん興味深かったです。ありがとうございました。
- OpenAlex に関する理解が深まり有意義な内容でした。オープンサイエンス・オープンアクセスの歴史、意義を再確認できたのも良かったです。小泉先生の「（オープンアクセスへの取り組みを）エピソードベースで考えると面白い。」とのコメントは、多くの実務担当者の心に響いたのではないのでしょうか。とても良いセミナーでした。沼尻先生、小泉先生、そして関係者のみなさま、ありがとうございました。
- 近頃、OpenAlex という名称を見聞きする機会が増えたものの、具体的にどのようなものなのかイメージが湧かなかったため、大変参考になりました。セミナー終了後に試しに使ってみました。検索結果の内訳が図解化されていたり、OA の種別（Gold、Green、Bronze など）が示されていたりして、単純に面白かったです。OA や OS の動向には関心があるものの、情報やツールの多さとその出現・変遷の速さについていけない日々ですが、こういったセミナーに参加し、紹介されたツールを実際に自分で試してみることの重要性を改めて実感したところです。この度は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- Scopus を用いての分析はしたことがありましたが、OpenAlex は利用したことがありませんでした。今度ぜひ触ってみたいと思います。
- 研究評価の潮流の変化について初めて詳しくお聞きできました。OpenAlex も初めてお聞きし大変興味深かったです。
- OpenAlex のことは存じませんでした。GRIPS の話を聞いたのが良かったです。JIF は雑誌の指標としては有用ではないのでしょうか。どんな指標にも意味があり、使い方の問題かと。
- 現状の研究環境の世界的な不均衡が問題視されているため OA にしてアクセス可能な

範囲を広げること、またグローバルサウスの研究成果も適切に収集対象としていかななくてはいけない、という点は、日本ではあまり話題にならないと感じていましたが、EU ほか各国ではその意識が強いということがわかり世界的な流れをより深く理解できました。OpenAlex の分析では、分野別の OA 率と国別の比較グラフがとても興味深かったです。とても親しみやすく、わかりやすい講演をありがとうございました。

- オープンサイエンス ちょっといい壱集がいいアイデアだと思いました。オープンにすることに価値があったと思ってくれたわけなので。
- 沼尻先生の語り口が軽妙でとても楽しく聞くことができました。私は図書館職員なのですが、学内の職員からは「教員と渡りあうには学位が必要では？」という意見もあります。でも本日のお話で「立場が違ってもやりがいや意味を感じられるならいい」「個人のエピソードが大事」というのを聞いて、「今やれることをやればいい」と勇気づけられました。Slido の質問も活発でしたので、後日回答をおまとめいただけると嬉しいです。ありがとうございました。
- 政策的に言うともオープンサイエンスはソサエティ 5.0 以上に 世界、社会、最終的には市民生活 や経済等暮らしの在り方までを巻き込みかねない大きな潮流なので、すぐに体験できるメリットを議論するのは難題と思いましたが、一人一人の体験やエピソードで何が見えるか・よかったこと、と言った視点は、また別の文脈で重要と感じました。ありがとうございました
- 特に自身の研究を OA にするメリットとして、業績というより、もっと身近な（あるいは些細な）自分の研究を理解してもらえた/面白いと思ってもらえたエピソードの方が刺さるのではないか、という視点は、非常に腹落ちした
- オープン化が研究情報の取得等についての障壁(コスト、言語、等)を下げて健全なグローバル競争を促進していくのならいいのですが。本日の話を聞いている限り、データの品質やその維持、分析プラットフォームのないことなど、まだまだ課題が多いように見受けられました。Scopus や SciVal についての政府機関からの契約金額補助など実施してもらったほうが現実的のように思えます。
- あまり詳しい知識を持っておらず、話についていけるか心配していましたが、自分でも驚くほど楽しく拝聴することができました。質疑応答でのお話も含め、大変興味深く参考になる内容でした。ありがとうございました。
- 質疑応答含め幅広いお話を伺うことができ、大変勉強になりました。
- IF とかいつも言われているのですが、毎回の参加で、研究者としての原点・立ち位置が確認できました。来年度の企画も楽しみです。
- いつもためになる研修を企画いただき、どうもありがとうございます。小規模校におりますので、本研修会は最新の動向を知るよい機会になっています。今後ともよろしくお願いいたします。
- 毎回感じているのですが、このセミナーは講演をきっかけに、それまでとは異なる視点で学術情報流通について考えを深められる大切な機会になっています。会場の雰囲気

気が和やかで、情報交換会では講師も含め、異なる立場の方と自由に会話ができるのもいいです。

- いつもいろんな視点・観点があることを実感、勉強させてもらっています。